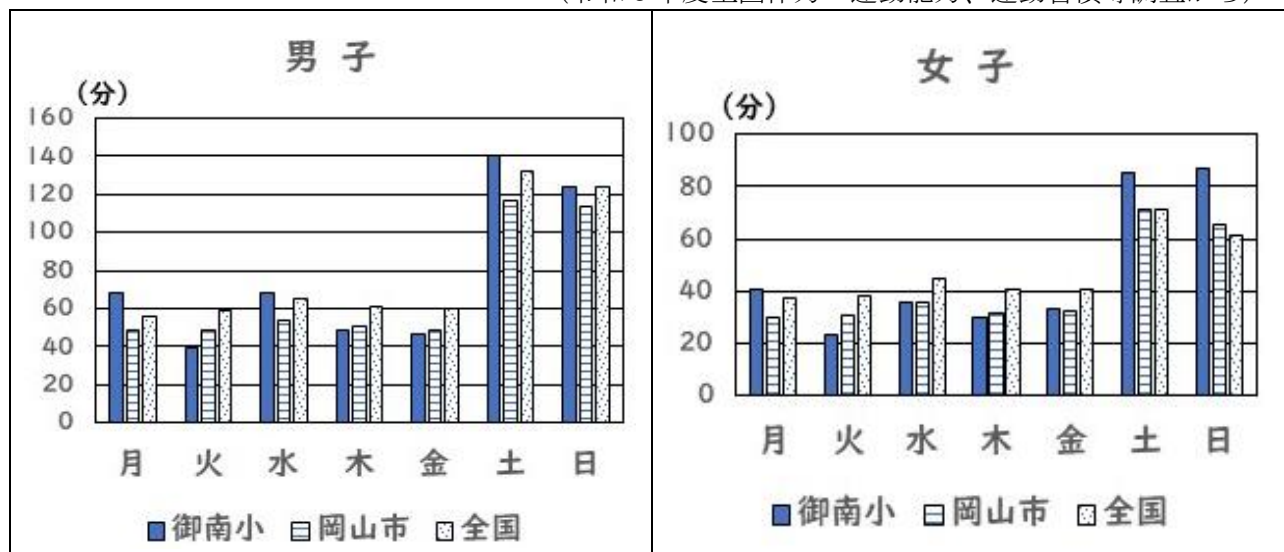


御南小遊びNo.1 決定戦

学校名	岡山市立御南小学校		校長名	菅野 純郎	
児童生徒数	731人	学級数	30	教職員数	63人

< 体育の授業以外の運動やスポーツの時間（曜日別） >

（令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から）



1 児童生徒の実態

本校（地域）は、運動場が広く、地域にも複数の公園があり、児童が体を動かす場は多い。実際に放課後には、多くの児童が公園に集まって遊んでいる。また、スポーツ少年団などの習い事も活発である。そのため、日ごろから積極的に運動に取り組む児童が多い。

しかし、全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果から、1週間の運動時間が1時間に満たない児童の割合が全国平均に比べて高くなっていることや、平日の運動時間が全国平均に比べて短い傾向があることが明らかになった。そこで、休み時間や家庭での運動時間を増やし、運動がすでに習慣化している児童とそうでない児童の二極化を改善していきたい。

2 取組の概要

「御南小遊びNo.1 決定戦」とは、運動委員が遊びを考え、それらを紹介するとともに、体験できるコーナーを作って体験してもらい、御南小のみんなが選んだ遊びナンバーワンを決めようというものである。御南小学校では、積極的に運動に取り組む児童とそうではない児童の二極化が見られるという実態から、運動習慣の定着の第一歩として、運動することの楽しさをより多くの児童に伝えることを目指し、今回の取組を行った。

具体的には、まず運動委員会の児童が「こんな遊びだったら、外に出て遊びたくなるな。」という視点で、全校児童に紹介する遊びを考えた。（資料1）その結果「押し出し鬼ごっこ」「ペットボトルボウリング」「たまいれビンゴ」「電子レンジおにごっこ」「ペットボトルけり」「ホールインワンフリスビー」「マーカーオセロ」の7種類の遊びが挙がった。次に、遊びの動画を作成し、放送で全校児童に紹介した。そして、休み時間に体験コーナーを設置し、実際に遊ぶことができたようにした。その後、楽しかった遊びに投票することで、御南小遊びNo.1を決定した。御南小学校で1番人気の遊びは、「電子レンジおにごっこ」だった。

また、児童の遊びの引き出しを増やすことができるよう、御南小学校のポータルサイトに「あそびBOX」のページを設けた。(資料2) ここには、今回児童が考えた遊びの動画を掲載することで、児童や保護者がいつでも閲覧できるようにした。今年度の取組のみでは、まだまだ数が少ないが、毎年追加していくことで、遊びのアイデアが溜まっていく場所にしたい。休み時間や家庭でも、活用してもらうことを期待している。



資料1 運動委員が考えた遊び



資料2 御南小ポータルサイト あそびBOX

3 成果

遊びの体験コーナーは、大盛況だった。低学年から高学年まで学年を問わず多くの児童が遊ぶ様子が見られた。(資料3) その中には、普段外に出て遊ぶことがほとんどない児童も見られた。児童からは「普段しないような遊びができて、楽しかった。」「いつも教室で遊んでいるけど、楽しそうだから参加してみた。」などの声が聞かれた。普段、運動する機会が少ない児童が、外で遊ぶきっかけとすることができたと考えている。また、遊びの種類によっては、授業の導入で、ほぐしの運動として活用することができた。休み時間や家庭での時間だけでなく、授業時間の充実にもつなげることができた。



資料3 取組の様子

4 課題・今後の取組に向けて

今回の取組では、児童の運動習慣を定着させるための第一歩として、遊びを通じて運動の楽しさを伝える体験コーナーを設置した。この取組によって多くの児童が楽しみながら体を動かす機会を得ることができた。しかし、一方で参加していない児童も一定数おり、運動の機会が平等に提供されていないという課題があがった。

参加していない児童の要因としては、運動に対する苦手意識、興味関心の違い、友人関係などが考えられる。特に、運動が得意でない児童は「うまくできない」と感じてしまい、参加を避ける傾向がある。また、特定の遊びに興味をもてない児童や、友達と一緒にでなければ参加しづらいと感じる児童もいるかもしれない。

この課題を解決するためには、運動内容の多様化や児童が安心して参加できる工夫が必要だと考える。例えば、競争要素を抑えた遊びや1人でも楽しめる遊びの導入、児童同士の交流を促す仕組みを取り入れることが有効ではないかと考える。また、「運動がんばりカード」を作成し、あそびBOXと併用するなど、運動の習慣化のきっかけづくりとなる取組を考えていきたい。